

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-137	高等学校	家庭	家庭基礎	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家基 007-903	新図説家庭基礎		

1. 編修の基本方針

家族・高齢者・子どもと積極的にかかわろうとする態度を身につけ、衣食住・消費生活に関する基本的な知識・技術を習得し、職業についても考え、社会で自立・自律して生きることができることを基本におき、編修した。また、高校生が実際に手を動かし主体的に行動することで知識・技術の定着を図ることができるよう、実践的・体験的なワークを豊富に掲載した。自他と協力して主体的に社会の形成に参画する態度を養えるよう、考え・他者と話し合うための資料やワークを掲載した。学習要素にかかわる身近な事例をコラムとして取り上げることで、高校生にとって理解しやすく平易な内容となるよう留意した。

2. 対照表

●全体的な特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
章扉	- 章を概観できる質問に答えることを通して、学習内容に対する興味・関心を喚起するとともに、生徒が自らの理解度を把握した上で学習に向かえるようにした（第1号）。 - 学習前と学習後の変化を記述させることにより、生徒一人ひとりが各章を通して習得したことを主体的に振り返ることができるようにした（第2号）。	p. 38, 90など
見開き2ページ展開	- 各単元を短く区切り、その冒頭にこれから学習することながらを完結に示すことで、学習内容に対する興味・関心を喚起させ、自ら学ぶ姿勢を養えるようにした（第2号）。 - 基礎・基本および身近な事例をていねいに記述することにより、幅広い知識と教養を身につけることができるようにした（第1号）。	全般
実践コーナー・深ぼりWORK	- 実践的なワークを通して、生徒が実際に考え行動することで、真理を追究する態度を養うことができるよう配慮した（第1号）。さらに、自ら実践し解決する能力を伸ばし、創造性を培うことができるよう配慮した（第2号） - 一つのテーマについて深く考え、グループで話しあうことにより、自他を重んじ、協力して社会の形成に参画する態度を養うことができるようにした（第2・3号）。	p. 86, 144など p. 19, 79, 193など
ズームアップ・コラム	具体的な内容や事例を通して、幅広い知識と教養を身に付け（第1号）、主体的に社会の形成に参画する態度を	p. 108, 224 など

	養うことができるようにした（第2号）。	p. 63など
章末問題	・教科書に掲載されている内容から出題される設問を通して、生徒が基本的な知識の習得をできるように配慮した（第1号）。	p. 37, 197 など
巻末カラーページ	・職業に従事する人が、これまでどのようなことに興味関心を持ち、どのように専門性を習得し、現在の職についてどのようなことを考え、行動してきたのかについて、インタビュー記事を掲載することで、職業を身近なものとしてとらえられるようにした（第2号）。	巻末カラーページ

●各章における特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1章 自分らしい生き方と家族	・日本における伝統的な人生儀礼を学ぶことにより、日本の伝統文化を尊重する態度を養えるよう配慮した（第5号）。 ・自立して生きることは、パートナーとの関係、家族との関係、社会との関係の中で成し遂げられること、自分だけでなく他者に対しても大切に思う気持ちを学習できるようにした（第1・3・4号）。 ・家事労働および職業労働の重要性を述べ、その意義を考えることにより、勤労を重んずる態度を養うことができるようにした（第2号）。 ・男女が共に生活を築くという視点を盛り込んだ（第3号）。	p. 13 p. 16～17 p. 18～19 p. 20～25
第2章 子どもとかかわる	・子どもの発達・発育の基礎的な知識や、子どもの生活を学ぶことにより、生命を大切にする心を養うことができるようにした（第4号） ・子どもを育てる、子どもとかかわるという学習を通して、家族がそれぞれ尊重し合い、共に協力して生活していくことについて考えることができるようにした（第3号）。 ・子どもや子どもを育てる人への理解を深めることで、豊かな情操や道徳心を培うことができるよう配慮した（第1号）。	p. 40～55 p. 56～59 p. 60～63
第3章 高齢者とかかわる	・高齢社会の現状を知り、これからの社会に向けての取り組みについて考えられるようにした（第1号）。 ・高齢者の心身の状況や生活についての理解を深めることにより、個人の価値を尊重する大切さや、生命の尊さを学ぶことができるようにした（第2・4号）。	p. 70～71 p. 72～79
第4章 社会とかかわる	・さまざまな人に対する理解を深めることにより、他人を思いやる気持ちなどを培うことができるようにした（第1・4号）。 ・社会保障制度を学び、支えあいについての理解を深めることで、公共の精神を養えるようにした（第3号）。	p. 80～81 p. 82～85

第5章 食生活をつくる	・栄養および食品の基礎的な知識と、適切な食生活の重要性を述べ、健やかな心身を育むことについて学べるようにした（第1号）。 ・食生活と他国や環境との関係を学ぶことにより、他国や自然とのかかわりについて考えられるようにした（第4号）。 ・和洋中の料理の特徴や食事のマナーを、調理実習とあわせて掲載することにより、総合的に理解できるようにした（第1・5号）。 ・調理実習の手順を写真で掲載することにより、興味関心を喚起し、主体的に参加する態度を養い、健康な心身を保つための技術を習得できるようにした（第1・2号）。	p. 92～113 p. 114～117 p. 134～143 p. 130～147
第6章 衣生活をつくる	・衣服と風土の関係や、日本の伝統文化である和服を知ることにより、日本や世界の衣服の文化を大切にすることを養えるようにした（第1・5号）。 ・繊維の知識および衣服の安全や管理についての知識を習得することにより、自らの衣生活をよりよいものにしようとする力を養えるようにした（第1号）。 ・自分たちが着ている衣服と環境とのかかわりを学ぶことで、他国を尊重する態度や環境保全に取り組む態度を養えるようにした（第4・5号）。	p. 150～153 p. 154～165 p. 166～167
第7章 住生活をつくる	・日本の気候・風土と住生活の関係を学ぶことにより、日本ではぐくまれてきた文化を尊重する心を養えるようにした。また、他国の住生活についてもあわせて考えられるようにした（第5号）。 ・住空間の成り立ちや、平面図を読み取るなどの学習を通し、自主的によりよい住生活について考え、創造できるようにした（第2号）。 ・健康や安全、防災・減災、環境に配慮した住まいについての知識を習得することにより、自らの住生活をよりよいものにしようとする力を養えるようにした（第1号）。	p. 178～179 p. 196 p. 180～183 p. 194～195 p. 184～193
第8章 消費行動を考える	・消費者としての意思決定や契約の基礎的知識を学習することにより、自立した消費者として生活していく力をつけられるようにした（第2号）。 ・現在の生活と環境との関わりを学ぶことにより、自然を大切にする態度や環境保全に寄与する態度が身につくようにした（第4号）。 ・持続可能な社会をつくるため必要な知識や行動を、自分の問題としてとらえられるように配慮した（第3号）。	p. 200～211 p. 212～215 p. 212～215 p. 226～228
第9章 経済的に自立する	・経済計画の重要性を学び、自律的・創造的に、将来の生活設計および経済計画を考えられるようにした（第2号）。	p. 216～225
年中行事と行事食 人生儀礼 地域と食文化	・日本の食文化と年中行事、人生儀礼と衣服・儀礼食を学習することにより、日本の伝統と文化を尊重できる態度を養うことができるようにするとともに、他国への理解を深められるよう配慮した（第5号）。	p. 230～233

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため、以下の点に留意し、本書を編修した。

学校教育法第五十一条	
一 義務教育として行われる普通教育の成果をさらに発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	・ 家族関係、衣食住にかかわる基本的な内容については、中学校での学習内容も掲載して確実な定着を図り、実践的な学習につなげられるようにした。中学校の家庭科で学ぶ要素を章扉に掲載することにより、義務教育からの円滑な学習の拡充ができるようにした。
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。	・ 実践的なワークに取り組むことにより、基礎的な知識の定着を図り、より専門的な知識や技術の習得に取り組む姿勢を身につけられるようにした。 ・ 自分を客観的に見つめ、将来の職業や生活を考えることができるような教材を盛り込んだ。
三 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。	・ 法律や制度などを学び、それらの知識を深めるとともに、それらを通して今後の生活の課題解決に向けて考え、行動できる力を養えるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-137	高等学校	家庭	家庭基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家基 007-903	新図説家庭基礎		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

■紙面構成と表現

- (1) 本文を精選することで概要を端的に把握でき、学習要素は関連するものをまとめ、解説を掲載することで、理解しやすくなるよう配慮した。
- (2) 原則見開き2ページ展開とし、各節に学習のねらいを示すことにより、生徒が学習内容に対する興味関心を持ち、要点を正確に把握できるよう配慮した。
- (3) 図や写真など豊富な資料を掲載し、デザインのビジュアル化をはかり、楽しく学習できるよう工夫した。
- (4) 本文にはユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすくなるよう配慮した。また、外国人生徒が増えつつある現状と多様性への対応を考慮し、多くのルビをふり、多様な生徒が理解できるようにした。

■内容上の工夫

- (1) 生活の中から課題を発見し、よりよい生活をつくる力を身につけられるよう、巻頭に課題解決・ホームプロジェクト・学校家庭クラブを取り上げた。家庭科の授業の冒頭にその大切さを学ぶことができるようにすることにより、その観点・考え方を持って授業を望んだり、日々の生活を送ったりすることができるようにした。
- (2) 学習の前後の変化を見つめなおすことができるように章扉を設けた。教科書で学習する内容に関連する設問を用意し、それぞれに学習前後での自己評価を明記する欄を設けた。また、章全体の振り返りを生徒が自由に記入することができるスペースを設け、学習の振り返りの一助となるように工夫した。
- (3) 「深ぼりWORK」を設けた。教科書の基本的な知識・内容から、日々の生活における課題などに気づき、統一できる正解のない事柄について深く考え、他者と話し合い、違いに気づき、これからの生活を共に考えていけるような、主体的・対話的で深い学びに向けた授業の一助となることをめざした。あわせて、思考力・判断力・表現力を培えるよう配慮した。
- (4) 資料を豊富に掲載し、「コラム」には本文を具体化する内容や事例などをとりあげ、理解を深められるようにした。
- (5) 脚注に「あたりまえ？」や「小ネタ」を設けた。「あたりまえ？」は生徒の視野を広げることを、「小ネタ」は生徒の興味・関心の向上をはかることをめざした。
- (6) 各章に「ズームアップ」を設け、子どもや高齢者とのコミュニケーション能力を高め、積

極的にかかわることができるよう、具体的で充実した記述を掲載した。また、防災・減災・災害時の対応、文化、自立を促すために有用な法律や成年年齢に関することがらなど、これからの時代を生きる生徒にとって重要と思われる内容を扱った。

(7) 各章末に「実践コーナー」を設け、生徒が実際に手を動かし行動することによって、学習を深め、知識・技術の定着を図ることができるようにした。題材選定においては、環境や科学的な視点も学習できるよう配慮した。また、章末に掲載することにより、授業に柔軟に対応できるよう配慮した。

(8) 各章末に「章末問題」を設けた。教科書の本文に掲載されている基本的な知識・内容を確認する問題と、グラフや表、イラストから考えさせる問題を収録し、知識の確実な定着とあわせて、思考力・判断力・表現力を培えるように配慮した。

(9) 生徒の学習経験に応じて学ぶことができるよう、「調理の基本」や「手縫い」「ミシンの使い方」など、一部中学校の既習事項である内容も掲載した。

(10) 巻末に年中行事と行事食、人生儀礼、地域と食文化について扱うことにより、日本の伝統と文化を尊重し、関心を持つように工夫した。また、職業インタビューを掲載し、キャリア教育の一助となるよう配慮した。特に、学習することと専門性を深めることのつながり、またその専門性が職業につながることに理解できるよう配慮した。

■配列

(1) 配列は、文部科学省の学習指導要領の配列と合うようにした。第1～4章はこれからの生活をデザインすること、自分を見つめること、人とのかかわって生きること、社会の一員として生きること、の内容を盛り込んだ。第5～7章では、食生活・衣生活・住生活の基本的な知識・技術を学べるようにするとともに、災害・防災に関する内容を扱った。第8～9章においては、持続可能な社会を見通し、自立した生活を営むために必要な経済の計画や消費生活についての内容を盛り込んだ。

(2) 環境に関する具体的な内容は、食生活・衣生活・住生活の中で学べるよう、食・衣・住の各分野に記述した。環境全般の記述については、消費行動との関連をはかるため、第8章に配置した。

(3) 参照ページや関連する分野を適宜掲載することにより、分野を横断する授業に柔軟に対応できるようにした。

■各分野について

第1章 自分らしい生き方と家族：生活設計→青年期の自立→労働→家族→法律と学習を展開していくことで、生徒が今を起点に将来を見据えることができるようにした。また、生活時間などから今を見つめ、これからの生き方について考えられるよう工夫した。

第2章 子どもとかかわる：青年期と妊娠の関係、発達段階に応じた保育の知識、子どもの生活などを系統立てて学ぶことができるようにした。特にかかわりのなかで発達することについて扱うことで、子どもについての理解を深められるよう配慮した。さらに親としての視点や、社会全体で子どもを育てていく視点を持てるようにした。

第3章 高齢者とかかわる：高齢社会の現状について理解を深め、高校生が高齢者の生活や気持ちを理解できるよう配慮した。介護保険制度を取り上げ、介護保険の基本的なサービスと利用の流れについて学べる内容とした。

第4章 社会とかかわる：共に支え合って生きることの大切さや、社会保障制度の基本的な内容を理解できるようにした。

第5章 食生活をつくる：現代や生徒自身の食生活の課題から、よりよい食生活をつくることについて考えられるようにした。栄養・食品・衛生などの学習の後、献立作成と調理技術を学び、それぞれの知識と技術を総合的に生かして調理を行うことができるようにした。さらに、これからの食生活を広い視野で考えられるよう、日本の食料事情や環境とのかかわりを記述した。

調理実習について

和洋中の特徴と実習をあわせて掲載することにより、総合的に理解できるようにした。調理実習の手順をていねいに記述し、調理の基礎に関する動画を用意することで、生徒の自学自習にも対応できるよう配慮した。また、題材ごとにエネルギー・たんぱく質・脂質・塩分の値を示し、食事摂取基準との関連をはかることができるようにした。さらに、巻末に食品成分表を掲載することで、自分の実際の食生活の状況も確認・評価できるようにした。

第6章 衣生活をつくる：衣服の起源や文化から、衣生活に興味・関心を持てるよう配慮した。また、衣服の機能や素材、安全や管理についての知識を学ぶことにより、実際の衣生活に結びつけ、快適な衣生活を送ることができるようにした。環境との関わりについても学び、持続可能な衣生活の視点が学べるようにした。さらに、衣生活の自立の観点から、手縫いとミシンの使い方や簡単な実習を扱い、基礎的な技術が定着できるようにした。

第7章 住生活をつくる：住まいの機能と文化の関係や、日本の生活様式の変化について学習できるようにした。また、ライフステージと住まいのかかわりを学習し、住居の主体的な選択について考えられるようにした。さらに、防災などの安全や、環境に配慮した住まいについての知識を習得し、これからの住まいや持続可能な住まいのあり方を考えられるようにした。

第8章 消費行動を考える：暮らしと消費行動の関係、契約の基本的な知識や消費者保護のしくみ、販売方法や支払い方法の多様化について理解できるよう具体的な資料を豊富に取り上げた。また、課題や消費者問題などにふれ、主体的に問題を解決していくことができるような内容とした。さらに、自らの消費行動を見直す観点から環境問題を取り扱った。持続可能な社会をつくっていくために、消費者・生活者としてどのような課題があるのか、また、主体的にどのように解決したらよいのかを学習できるようにした。

第9章 経済的に自立する：家計と経済社会のしくみ、短期的な収入・支出、最近の家計の特徴などを学び、さらに長期的な視点で将来の経済計画を考えられるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
生活課題を解決しよう		D	巻頭③～p. 5	2
第1章 自分らしい 生き方と家 族	章扉	A (1) (2)	p. 10-11	10
	1. 生涯発達する人生	A (1) ア	p. 12-13	
	2. これからの人生をデザインする	A (1) イ	p. 14-15	
	3. 青年期を生きる	A (2) ア・イ	p. 16-17	
	4. 生活を支える労働	A (2) ア・イ	p. 18-19	
	5. 生活時間から見えてくるもの	A (2) ア・イ	p. 20-21	
	6. 共に生きる	A (2) ア・イ	p. 22-23	
	7. 現代の家族	A (2) ア・イ	p. 24-25	
8. 家族・家庭を取り巻く社会環境の変		A (2) ア・イ	p. 26-27	

	化や課題			
	9. 家族に関する法律の理念と変化	A (2) ア・イ	p. 28-29	
	10. 家族にかかわる法律	A (2) ア・イ	p. 30-31	
	ズームアップ ライフステージと法律の概要	A (2) ア	p. 32-33	
	実践コーナー	A (1) (2)	p. 34-36	
	章末問題	A (1) (2)	P37	
第2章 子どもとかわる	章扉	A (3)	p. 38-39	10
	1. 子どもの誕生	A (3) ア・イ	p. 40-41	10
	2. からだの発達	A (3) ア・イ	p. 42-43	
	3. 運動機能の発達と知的発達	A (3) ア・イ	p. 44-45	
	4. かかわりのなかの発達	A (3) ア・イ	p. 46-47	
	5. 子どもの生活習慣と健康	A (3) ア・イ	p. 50-51	
	6. 子どもの食生活・衣生活	A (3) ア・イ	p. 52-53	
	7. 子どもと遊び	A (3) ア・イ	p. 54-55	
	8. 親になることを考えよう	A (3) ア・イ	p. 56-57	
	ズームアップ 子どもとのかかわり方	A (3) ア・イ	p. 58-59	
	9. すこやかに育つ環境と支援	A (3) ア・イ	p. 60-61	
	10. 子どもを守る法律・制度	A (3) ア・イ	p. 62-63	
	実践コーナー	A (3) ア・イ	p. 64-66	
	章末問題	A (3)	p. 67	
第3章 高齢者とかわる	章扉	A (4) (5)	P68-69	4
	1. 高齢社会に生きる	A (4) ア・イ	p. 70-71	4
	2. 高齢者を知る	A (4) ア・イ	p. 72-73	
	3. 高齢者のサポートと介護の心	A (4) ア・イ	p. 74-75	
	ズームアップ ボディメカニクスと介助	A (4) ア・イ	p. 76-77	
第4章 社会とかわる	4. 高齢社会を支えるしくみ	A (4) ア・イ	p. 78-79	4
	1. 共に生きるために	A (5) ア・イ	p. 80-81	
	2. 社会保険制度 ー公助ー	A (5) ア・イ	p. 82-83	
	3. 社会の一員としての私たちの役割 ー互助・共助ー	A (5) ア・イ	p. 84-85	
	実践コーナー	A (4) ア・イ	p. 86-89	
第5章 食生活をつくる	章末問題	A (4) (5)		14
	章扉	B (1)	p. 90-91	
	1. 私たちの食生活と健康	B (1) ア・イ	p. 92-93	
	2. 5大栄養素	B (1) ア・イ	p. 94	
	3. 炭水化物	B (1) ア・イ	p. 95-97	
	4. 脂質	B (1) ア・イ	p. 98-99	
	5. たんぱく質	B (1) ア・イ	p. 100-101	
	6. ミネラル	B (1) ア・イ	p. 102-103	
	7. ビタミン	B (1) ア・イ	p. 104-105	
	8. その他の食品	B (1) ア・イ	p. 106-107	
	ズームアップ 災害時の食の工夫 どうする？もしもの時！	B (1) ア・イ	p. 108-109	
	9. 食品の選択と表示	B (1) ア・イ	p. 110-111	
	10. 食品の衛生	B (1) ア・イ	p. 112-113	
	11. 食料自給率と食のグローバル化	B (1) ア・イ	p. 114-115	
	12. 食の未来と環境への取り組み	B (1) ア・イ	p. 116-117	
	13. 食事摂取基準	B (1) ア・イ	p. 118-119	
	14. 食品群別摂取量のめやす	B (1) ア・イ	p. 120-121	
	15. 献立作成	B (1) ア・イ	p. 122-123	
	16. 調理の基本	B (1) ア・イ	p. 124-129	
	調理実習	B (1) ア・イ	p. 130-143	
	実践コーナー	B (1) ア・イ	p. 144-146	

	章末問題	B (1)	p. 147	
第6章 衣生活をつくる	章扉	B (2) ア・イ	p. 148-149	9
	1. 人と衣服のかかわり	B (2) ア・イ	p. 150-151	
	ズームアップ 和服を楽しもう	B (2) ア・イ	p. 152-153	
	2. 健康で安全な衣服	B (2) ア・イ	p. 154-155	
	3. 衣服素材の種類と特徴	B (2) ア・イ	p. 156-157	
	4. 衣服素材の性能と改善	B (2) ア・イ	p. 158-159	
	5. 衣生活の計画と購入	B (2) ア・イ	p. 160-161	
	6. 衣服の管理	B (2) ア・イ	p. 162-163	
	7. 家庭での洗濯・保管	B (2) ア・イ	p. 164-165	
	8. 持続可能な衣生活をつくる	B (2) ア・イ	p. 166-167	
	手縫い	B (2) ア・イ	p. 168-169	
	ミシンの使い方	B (2) ア・イ	p. 170-171	
	実践コーナー	B (2) ア・イ	p. 172-174	
	章末問題	B (2) ア・イ	p. 175	
第7章 住生活をつくる	章扉	B (3) ア・イ	p. 176-177	6
	1. 人と住まいのかかわり	B (3) ア・イ	p. 178-179	
	2. 平面計画からみた住空間	B (3) ア・イ	p. 180-181	
	3. ライフステージと住まいの計画	B (3) ア・イ	p. 182-183	
	4. 健康に配慮した住まい	B (3) ア・イ	p. 184-185	
	5. 安全な住まい	B (3) ア・イ	p. 186-187	
	ズームアップ 防災・減災について考えよう	B (3) ア・イ	p. 188-189	
	6. 持続可能な住まい	B (3) ア・イ	p. 190-191	
	7. これからの住まい	B (3) ア・イ	p. 192-193	
	実践コーナー	B (3) ア・イ	p. 194-196	
	章末問題	B (3) ア・イ	p. 197	
第8章 消費行動を考える	章扉	C (1)(2)(3)	p. 198-199	7
	1. 契約と主体的な消費行動	C (2) ア・イ	p. 200-201	
	2. 多様化する販売方法と問題商法	C (2) ア・イ	p. 202-203	
	3. 消費者を守る制度・法律	C (2) ア・イ	p. 204-205	
	ズームアップ あなたは大丈夫！？消費者トラブルに巻きこまれないために	C (2) ア・イ	p. 206-207	
	4. 多様化する支払い方法	C (2) ア・イ	p. 208-209	
	5. 消費者の権利と責任	C (2) ア・イ	p. 210-211	
	6. 持続可能な社会の構築	C (3) ア・イ	p. 212-213	
第9章 経済的に自立する	7. 持続可能な社会をめざす取り組み	C (3) ア・イ	p. 214-215	4
	1. 日々のお金の流れを把握する	C (1) ア・イ	p. 216-217	
	2. 社会と家計の変化	C (1) ア・イ	p. 218-219	
	3. 経済のなかの家計	C (1) ア・イ	p. 220-221	
	4. 人生設計とリスク管理	C (1) ア・イ	p. 222-223	
	ズームアップ 豊かな暮らしのために、あなたの未来をお金から考えてみよう	C (1) ア・イ	p. 224-225	
	実践コーナー	C (1)(2)(3)	p. 226-228	
	章末問題	C (1)(2)(3)	p. 229	
年中行事と行事食		B (1) ア・イ	p. 230-231	
人生儀礼 衣服と儀礼食		B (1) (2)	p. 232	
地域と食文化 すし		B (1) ア・イ	p. 233	
食品成分表		B (1) ア・イ	p. 234-237	
巻末 自分に合った職業を探す		A (2) ア・イ	巻末⑧～⑭	
			計	70